

会 議 録

会議の名称	第3期 小金井市地域自立支援協議会（第5回）
事務局	福祉保健部障害福祉課、地域生活支援センターそら
開催日時	平成24年11月21日（水） 午後2時00分から午後4時00分
開催場所	前原暫定集会施設 A会議室
出席者	<p>【委員】</p> <p>高橋智委員(会長)、矢野典嗣委員（副会長）、鈴木日和委員、馬場利明委員、中村悠子委員、森田純司委員、大久保昌弘委員、森田史雄委員、ボーバル聡美委員、赤木敏一委員、堀池浩二委員、水野元子委員</p> <p>【オブザーバー】</p> <p>地域安全課防災消防係主事 山田修平</p> <p>【事務局】</p> <p>障害福祉課障害福祉係長 藤井知文 障害福祉課相談支援係長 高田明良 障害福祉課障害福祉係主任 北村奈美子 地域生活支援センターそら 伊藤奈保子</p>
傍聴の可否	可
傍聴者数	1人
会議次第	別紙会議録のとおり
会議結果	別紙会議録のとおり
提出資料	添付のとおり

第3期 第5回小金井市地域自立支援協議会 議事要旨

日 時：平成24年11月21日(水) 14:00～16:00

場 所：前原暫定集会施設 A会議室

出席者：協議会委員 12名

障害福祉課障害福祉係長

障害福祉課相談支援係長

障害福祉課障害福祉係主任

地域安全課防災消防係主事

地域生活支援センター そら

配布資料 1： 第3期小金井市地域自立支援協議会委員名簿（資料1）

2： 討議から見えてきた障害者の防災・災害対策のポイント

1. 開会

事務局 (藤井係長)	・開催にあたり、配布資料の確認。 ・秦委員より、欠席の連絡が入っている。
---------------	---

(1) 委員挨拶

事務局 (藤井係長)	・資料1を確認してほしい。欠員となっていた指定相談事業者枠の委員選出区分についてお知らせする。小金井市精神障害者地域生活支援協議会より、水野元子氏のご推薦をいただいた。委員の委嘱を10月30日付で行ない、協議会へは今回より出席いただくこととなった。 ・水野委員より、ご挨拶をお願いしたい。
水野委員	～「地域生活支援センターそら」の水野です。宜しくお願い致します。～
事務局 (藤井係長)	・これまで3回にわたって「防災・災害対策を考えるために」として検討してきたが、今回が最終回となり、そのまとめとなっている。本日は、地域安全課の山田主事に出席いただいた。 ・山田主事より、ご挨拶をお願いしたい。
地域安全課 (山田主事)	～地域安全課防災消防係の山田です。宜しくお願い致します。～

2. 議題

(1) 防災・災害対策を考えるために ～これまでのまとめ～

高橋会長	・本日の会議は、出席者12名となり、本協議会は成立。 ・議題(1)の「防災・災害対策を考えるために」に入る。
------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・本日はこれまでのまとめの回となる。「討議から見えてきた障害者の防災・災害対策のポイント」の資料を作成した（参照）。これは、新たに加えたものではなく、これまでの協議の内容や、これまでの協議で積み残してきた内容等をまとめたものとなっている。 ・本日の討議は、フリーディスカッションの形となるため、これまでの報告や担当分野をふまえながら意見等をお願いしたい。また、地域安全課の山田主事への質問等も含めながら、進めていきたい。 ・作成した資料の内容を簡単に報告する（資料参照）。多くの意見が出されたが、まず一つ目は火災の問題。小金井市で大きな地震が起きた場合に火災の拡大が最大のリスクがあるのではないか。 ・広域避難場所が遠い。障害のある人が自分の自宅からどのように広域避難場所まで避難するのか。避難経路や手段の確保が大きな課題。当初考えられていた一時避難場所、福祉避難所や一次避難所では、火災拡大の際は延焼する可能性もある。残念ながら、火災拡大を目的とした、避難計画は今のところ考えられていないため、そのようなことについての検討も今後は必要。 ・対象の問題では、精神障害者や内部障害者、難病者など一見障害のある人とわかりにくい方の要援護者登録について。 ・要援護者の個別支援プランの作成となっているが、どこまで整備・拡充されているのかというところがある。 ・障害等を判断しにくい人への「ヘルプカード」や「ハートマーク」等の整備について。 ・体力や抵抗力のない乳幼児・子供が家庭任せ、親任せになっているが、この部分をいかに守るかということをしっかき対応することで、高齢者や障害者等の様々な要援護者のケアにつながるようなユニバーサルな考え方が必要。 ・対象からもれやすい外国人の把握の問題もある。 ・当事者についての議論はなされているが、その家族への対応も問題になっている。避難所へ避難できない障害者のいる家族の支援の検討も必要。 ・市外施設を利用されている障害のある人の支援について。週末や帰省のため小金井市内へ戻ってきている際に災害が発生した場合、住所地が異なるため、要援護者名簿から外れてしまうのではないかと不安もある。 ・災害伝言ダイヤルの利用が進められているが、障害のある人が利用できるようになるためには、習熟が必要。 ・医療面では、救急医療情報キットが必要。府中市のものが参考資料として配布されたが、小金井市でも取り組みをお願いしたい。 ・医療救護所で、酸素吸入や痰吸入などの必要最小限の救急医療機器を確保することが必要。震災発生時に慌てて探して見つかるものではない。在宅では所有しているが、一旦避難所へ行って、手に入らない状況となったら命にかかわる。救急医療機器の整備は必要。 ・薬の確保が大きな課題。日頃から医療品の入手経路を明確にしておく必要がある。
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・指定されてある福祉避難所について震災が起きてからの割り振りでは間に合わない。一度入ったらなかなか移動することは難しい。現時点から、障害者、疾病者、妊産婦、乳幼児、高齢者等の部屋割りを明確に計画してほしい。そこには当座必要な備品等も合わせてセットする。緊急医療機器とかベビーフード、粉ミルクなど、探さなくてもそこに自動的に確保されているような部屋割り計画が必要。 ・避難所は学校が多くなるため、教育との関係が不可欠になるが、小金井市でも教育委員会との連携が十分ではない実情がある。教育委員会が独自に動くのではなく、連携しながら動いてほしい。 ・小金井特別支援学校では、チューブレスのリヤカーをすでに購入。チューブレスの自転車も有効。各施設での整備を進める必要がある。 ・アレルギー食、ベビーフード、オムツは即必要なものになる。 ・災害発生時の責任問題については、十分な議論は必要。 ・以上、これまでのまとめとなる。十分ではないところもあると思われるため、ここからは、自由に発言をお願いしたい。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・広報で本日災害の通報があると伺ったが、貫井北町 5 丁目と桜町は全く聞こえなかった。実施されたのか。
地域安全課 (山田主事)	<ul style="list-style-type: none"> ・防災行政無線（Jアラート）の試験放送は、本日 10 時と 10 時 30 分の 2 回実施されるというお知らせをし、本日放送された。 ・地域によって聞こえていないということで、今話にあがった地域以外についても電話で問い合わせが入っている。地域によって、音が大きすぎるとか、反対に聞こえないという連絡が入っている。 ・今年度は、音響調査や聞こえやすさ調査を外部委託で行なう予定である。 ・防災行政無線が聞こえづらい地域への対応として、放送内容を電話で確認することができる自動音声応答サービスを実施している。このサービスでは、専用の番号に電話をかけると、あらかじめ録音した防災行政無線と同じ内容を聞くことができる。この自動音声応答サービスを周知しているところ。 ・市役所の庁舎内でも室内では、防災行政無線の音が聞こえにくい状況もあった。外でも場所によっては聞こえにくい地域がある。そのような場所を精査し、対策を講じたいと考えている。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・計画停電の時の方が聞こえた。それらしい音ぐらいは聞こえるかと思っていたが、今日は全く何も聞こえなかった。
地域安全課 (山田主事)	<ul style="list-style-type: none"> ・貫井北町 3 丁目からは連絡が入っている。東町からも何件か問い合わせが入っている。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・意識していたが、聞こえなかった。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・全く聞こえなかったため、実施しなかったのかと思った。
地域安全課 (山田主事)	<ul style="list-style-type: none"> ・もう一度課内で確認し、対応したいと思っている。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・広報で大々的に載っていたのであれば、整備はきちんとしてほしい。
地域安全課	<ul style="list-style-type: none"> ・防災行政無線は、設置から年数がかなり経過しているため、今年度音響調査

(山田主事)	を行なった。
鈴木委員	・放送内容については、自動音声応答サービスで聞けることの話だったが、どれだけ電話が入ったかということはあるのか。
地域安全課 (山田主事)	・わかるようになっている。本日は、午前中の段階での確認となるが、履歴は多くはなかった。 ・問い合わせは、5件ぐらいだった。
中村委員	・聞こえにくいような状況であれば、聞こえにくかったと言いやすいが、全く聞こえなかった場合は言いようがないのではないかと。
地域安全課 (山田主事)	・全く聞こえなかったり、音が大きすぎたりと地域によってバラつきがあるため、地域ごとの調査結果を吟味し、対応していく必要があると考えている。
鈴木委員	・今回は試験放送ということもあり、自動音声サービスを聞こうという人は少なかったかもしれないが、実際に災害が発生した場合は、それが頼りになる。その行動を市民が起こせるかということが大事になる。市民への周知をお願いしたい。
赤木委員	・広報車は何台あるのか。
地域安全課 (山田主事)	・広報車の管轄は管財課になっているため、詳しい台数についてはわからない。広報車以外にも、消防署の車両や防犯で使用している青色回転灯装備車両なども活用することになる。
赤木委員	・市のスピーカーをつけた広報車だけではなく、消防の車も回ると認識していてよいのか。
地域安全課 (山田主事)	・地域安全課の防災担当職員は4名。消防団事務局も兼ねている。実際にこの人数で、中で電話を受けて、外で回ってということは難しいため、他の部署の職員に協力してもらって広報を依頼する形となる。
赤木委員	・いざ災害が起きた時に回る車両は、足りなくなるということか。 ・担当部署で、きめ細かな対応は難しいということか。
地域安全課 (山田主事)	・どこまで回るかということにはなるが、音の聞こえが悪かった地域を重点的に考えている。 ・東町が計画停電の際に防災行政無線が聞こえなかったとの話があった。このような地域を特定し、広報車を出すようにしたいと考えている。
赤木委員	・桜町上水会館の近くでも全く聞こえなかった。
地域安全課 (山田主事)	・もう一度聞こえなかった地域については、確認したいと思っている。
森田（史）委員	・避難場所はいくつか種類があると思うが、どの避難場所へ行くかという選択については、何かあるのか。
地域安全課 (山田主事)	・一時避難場所については、どの避難場所を利用するか各自の判断となる。 ・基本的な動きとしては、まず自分の身の安全を確保し、家族の安否確認をする。次に、一時避難場所へ避難する。それ以降については、延焼などがあった場合には、他の一時避難場所の利用や広域避難場所へ避難することになる。 ・防災行政無線を活用し、広域避難場所への避難誘導などの放送を行うことになる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・一時避難場所ではなく、広域避難場所へ身を寄せても構わない。ただ、耐震性の問題もあるため、建物の中には入らないようお願いしたい。グラウンドなどに身を寄せるという避難方法をとっていただきたい。
森田（史）委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今日は、どのような内容の放送だったのか。
地域安全課 （山田主事）	<ul style="list-style-type: none"> ・今日は、避難放送ではなく、放送が流れるかどうかの試験放送だった。その放送を２回実施した。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校のグラウンドでは、よくは聞こえなかったが、「訓練です」というような内容は聞こえた。
中村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・火災の情報は得にくい。目の前の火災であればわかるが、風の流れによっては、見えないが火が迫ってくる状況もあるかもしれない。災害発生時、建物が大丈夫であれば、建物の中にいることを判断する。動く方が危険だと判断しがちではあるが、火災の情報によっては、何が何でも逃げなければならない。そこに怖さを感じる。地震であれば、その場で判断できると思うが、火災はそうはいかない。不安を感じる。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・通常、火災情報はどのように把握されるのか。
地域安全課 （山田主事）	<ul style="list-style-type: none"> ・防災消防係は、消防団事務局も兼ねているため、職員はポケットベルを常時携帯している。火災発生時には、昼夜を問わず連絡が入ることになっていて、近くに住む職員は、出動する形となる。 ・地域の消防団もポケットベルを持っていて、火災発生時は出動することになっている。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・火災発生時は、上空からは把握することが一番だが、それは難しい。となると、把握できる人は、誰もいないのではないかという不安を抱いてしまう。このままでは、火災の情報を的確に把握している人はいないと思う。 ・次々延焼し、全市へ広がっていく場合に、どのように避難すればいいのか。
地域安全課 （山田主事）	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署へ連絡が入り、その連絡が市役所へ入ることになっている。しかし、延焼や各地域での火災発生には、まず消防団が駆け付けることになると思うが、市民への情報伝達についての回答は難しい。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・1995年1月17日の阪神淡路大震災の状況のように、あちらこちらで火が上がり、がれきの山による延焼が拡大し、多数の死亡者が出たという状況を想定すると、消防がか駆けつけられるとは想定し難い。 ・どこであれば、安全なのかという避難の方向は示してほしい。
地域安全課 （山田主事）	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を発信するツールはあるが、その方法や内容等についてどのようなになっているのか消防署へ確認させてほしい。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・幸いにも小金井市は自然が多く残っており、野川周辺や小金井公園、大学や小学校など広域避難場所になっているなど活用できるところもいくつかある。移動困難な障害のある人たちが、ダイレクトにそこへ向かって避難できるような形を検討し、火災から身を守る方法についてピンポイントで考えていってほしい。
地域安全課 （山田主事）	<ul style="list-style-type: none"> ・課題として受け止めたいと思っている。 ・東京都都市整備局では、地域危険度測定調査を行なっている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災計画修正の後になるが、平成 25 年の夏秋にかけて、公表される予定となっており、そのような情報を発信しながら、周知体制の確認を進めていきたい。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・小金井市での住宅の倒壊危険地域の調査等はどのようなになっているのか。
地域安全課 (山田主事)	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和 55 年以前の建築基準法が改正される前の耐震基準の建物が対象。 ・相対評価ではあるが、小金井市では、5 段階評価のうち危険度は 2～3 となっており、都内ではあまり高くない数値となっている。 ・駅前の本町周辺は密集地として小金井市の中での危険度は高いが、全体的な数値としては、あまり高い数値とは言えない。 ・周辺地域に比べると、小金井市は平坦で比較的安心できる地域という声はある。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・延焼の問題はある。
地域安全課 (山田主事)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域危険度測定調査の中で、災害行動困難度という新しい項目が加わる予定となっている。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・北と南で坂になる。障害のある要支援者の人たちは、坂がブレーキになってしまう。横へ逃げられるよう他市との連携も含めた検討が必要。 ・聴覚障害の人と話をしたが、会社において、情報が自分では得られず困ったとの話があった。電車が止まっているということはわかったが、それがどのような理由で止まっているのかということとは分からず、たまたま友人から話を聞き、状況把握した。聴覚障害の人たちへの情報伝達の工夫が必要。メールもつながりにくい。 ・障害種別ごとの対応について、各関係者等へ聞き取りをするなどし、細かく検討していくことが必要。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援方法については、課題だと認識している。市からの個別の発信については、常に頭の中にはあるが、まだまだできていない現状となっている。備品の購入など予算措置も含め、具体的な方策として進めていきたいと思っている。そのためにも、関係機関との協議も重ねながら、地域安全課や福祉保健部で情報共有していきたいと思っている。
赤木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者の立場としての心配事がある。現在居住している集合住宅は、比較的しっかりした建物であり、よっぽどことがない限り大丈夫だとは思っている。しかし、万が一の時を考えるが、考えようがない。建物から出た方がよいのか出ない方がよいのかもわからない。上から落下してきた時には、避難できなくなるかもしれない。年中車イスに乗っているわけではないため、状況によっては、車イスに乗るにも時間がかかってしまうかもしれない。道路の状況によっては、建物の外に出ても逃げられないかもしれない。そうなった時の精神状態もダメになっていると思う。腕力もなく、立ち上がれない状況にもなるかもしれない。誰かに起こしてもらわなければ起き上がることもできない。緊急時に誰かが手を差し伸べる余裕があるとは思えない。自分自身のことでパニックになっている状況の中、他人へ助けを求めるのは、気の毒な気もする。予想外の時は、どうしようもない。

馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・要援護者登録はされていないのか。身体障害者 1 級および 2 級の人には自動的に登録になるのではないのか。
赤木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自動的に登録されているのか。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・登録になっている。
赤木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員が訪問に来たのは、その事なのか。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・その対応としての訪問だった。
赤木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・大丈夫ですか、とは聞かれたが、何もなかったもので、それで終わった。訪問は翌日だった。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市が打ち出しているのは、自助。自分で頑張る方策を立ててほしい。3～5 日間のことは市が対応する。 ・共助として、地域の方に自身のことを隠すのではなくオープンにし、その状況に応じた応援をしてもらう体制を整えてもらう。 ・最終的に公助として、市の対応が求められることになる。 ・全て行政ができればよいが、そうはいかない。理想論となってしまうが、このような形が必要になる。市が全てを担うことは無理。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・無理だと言い切ってしまう発言に疑問を感じる。実際に困っている人がいて、優先的に助けなければいけないとなっているはず。 ・逃げる算段を制度として保障する形にしなければ、障害者の防災は一向に進まない。 ・障害のある人や病気のある人、妊婦、子供、高齢者は、権利として優先的にならなければ、議論は始まらないと思う。 ・公助が一番最後というのは、論外。民生委員が翌日に訪問しているような状況では、問題。すぐに駆けつけられるようなシステムの構築が必要。このままでは、障害のある人の救済はあり得ない。
赤木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・市の担当者との直通電話を作ってもらいたい。自宅へ来なくてもよいが、ホットラインがあれば安心できる。緊急時に対応できる職員を配置し、連絡できるようにしてもらいたい。一軒一軒回るのは大変だと思うため、ホットラインだけでも確保してもらえると助かる。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援プランの作成が必要。最悪の事態を想定した対応を検討しておくことが大事。そこまでしなくてもよい状況であれば、その状況に応じてする必要はない。 ・災害時には、自分の身は自分で守るということではなく、システムとして地域的に要援護者を救済するということをしっかり認識し、人員配置も含めたプランを明確にしておくことが必要なのではないのか。 ・想定通りにいかない状況もあるが、最大限の想定をしておくことが安心感へとつながる。
鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・共助ということを大事に考えるのであれば、赤木委員を助ける近所の人を登録することはできないものか。 ・幼稚園の場合は、母親が迎えに行けない場合は、代わりの人として優先順位をつけておき、その登録している人にだけに子供を引き渡すということを、事

	<p>前に登録している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市のシステムだと思うが、団地の上の階に住んでいる単身の高齢者の方が何かあった場合に知り合いの人に連絡するということで、それに登録をしてよいかと聞かれ、登録してもらっている。 ・各個人がつながり合って、責任を自覚しながら動けるシステムを作っておくと、お互いに安心できるのではないか。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今のお話は、小金井市で実施している災害時要援護者のシステムにあたる。現在、貫井南町がモデル地区となっている。 ・このシステムについての情報発信がまだまだ少ないということを痛感している。質問されることが非常に多くある。努力が必要な部分と実感している。 ・今後については、モデル地区の拡充を検討している。市内全域で実施できるよう目指している。 ・町会自治会に依頼する形になるため、積極的に手を挙げてもらえるようにしたい。担当の地域福祉課が説明にまわっている。 ・高齢の一人暮らしの方など、自治会に入っていない人も多いが、その情報を自治会へ出してよいのかという問題点もある。障害のある人によっては、個人情報を出してほしくないという人もいる。そのような状況をすべて受け入れたのが貫井南町であり、モデル地区となっている。 ・先程、ピラミッド型の自助・共助・公助をあげたが、市としては、市民全員の命は最大限守りたいと思っている。しかし、できることは限られているので、まだ整備できていないところもあるが、最低限のルール作りや情報発信など、一步一步積み重ねて市民の理解促進へとつなげていきたいと考えている。
鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・そのルール作りなど小金井市全体に広がるのはどのくらい先と考えているのか。
堀池委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、3 地区には広げたいと思っている。その先は、5 地区・10 地区と広げていきたいというイメージはある。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会や自治会が高齢化している状況はある。要援護者災害救助隊のようなものを作って、要援護者が社会的に災害弱者と認め、市として要援護者の災害救助を第一に考えるという形にするとよいのではないか。 ・災害時には、全員が災害弱者だと思ってしまう。 ・地域ごとにバラつきがある。普段働いていない人は熱心。反対に仕事をしている人たちは、日中不在のため加われない。 ・消防団と同じように、要援護者災害救助隊のようなものを作った方がよい。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小金井市は、外へ勤めている人が非常に多い。活動できる年齢の 7 割ぐらいの人たちは、外へ働きに行っている。外から入ってきている人を合わせても、高齢者や児童の 1 対 1 にならない。入ってきている人としては、大学生が多い。 ・救助隊を結成するためには、大学の協力をいただくのが一番だと思う。 ・早稲田大学は、そのような試みをすでに進めている。地方から大学の周辺地域で暮らしている学生は、その地域の高齢者との関係づけをしっかりとやっている。何かあった時には、必ず支援するようになっている。その学生が卒業すれ

	<p>ば、次の学生へ引き継がれていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小金井市でも貫井北町の要援護者に対し、学生をつけるというような仕組みづくりをお願いしたい。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・小金井市と連携事業として協定は結んでいるので、そのような立案が出ればすぐにでもできること。法政大学や東京経済大学、東京農工大学もある。 ・東京学芸大学は、大泉に男子の学生寮があり、大泉の地域で催される地域の行事に出るという協定を結んでいる。お祭りに男子学生が参加している。これは非常に評判がよい。卒業してからも関係は続いている。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・武蔵小金井駅南口の商店街も農工大学の野球部と代々関係が続いている。商店街の飾り付け手伝いをしてもらっている。毎年、上級生が作業内容を指導してくれるため、商店街の人間が指図しなくても進んでいく。 ・日中は、若い人が外へ働きに行ってしまうため、学生との関係は重要と考える。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・学芸大学には、約 5,000 人の学生がいる。 ・ほとんどの学生が小金井市や国分寺市の小学校・中学校のアシスタントティーチャーとして活躍している。一人が複数人を担当している。ボランティアなどをすることに抵抗のない学生ばかり。 ・学長も協力する考えを持っているはず。即実行できる話である。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ぜひお願いしたい。
地域安全課 (山田主事)	<ul style="list-style-type: none"> ・1週間程前になるが、都立小金井北高校の生徒と一緒に応急給水訓練を行なった。位置づけとしては、若い力をボランティアとして育成しようというものだった。今のお話もぜひ参考にしたい。
森田（史）委員	<ul style="list-style-type: none"> ・要援護者の支援については、不特定の誰かということではなく、具体的な支援者を固有名詞を決めておかないといけない。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・早稲田大学の場合は、普段からお付き合いをしましょう、という形をとっている。何かしらのイベントで高齢者と関わる仕組みを作っていると聞いている。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・早稲田周辺は、大学があって街が成り立っている。街の学生街がまた学生を呼び込む。所沢キャンパスや大久保キャンパスは人気がなく、早稲田キャンパスに集まってくる。持ちつ持たれつの市民との温かい関係がある。 ・小金井市内にもいくつかの大学がある。大学も地域連携を求めている。若い層との地域の連携を深めていくことで、小金井市に住みたいと戻ってくるかもしれない。 ・よい話だったと思うので、ぜひ小金井市でも検討をお願いしたい。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉避難所の割り当てについて。一次避難所でトリアージをするのではなく、最初から要援護者名簿に福祉避難所を記載することができるようになっている。要援護者については、福祉避難所の指定ができると安心。 ・今の福祉避難所の数では、圧倒的に足りない。 ・特別支援学校であれば、通っている生徒や卒業生が優先になるのは当然。そうすると、どこにもつながっていない障害者が利用しにくい。どこにも行く場所がない。

	<ul style="list-style-type: none"> ・どこにもつながっていない障害者が利用できるように大学の校舎など、オープンな福祉避難所をひとつ設けてもらえると安心。
地域安全課 (山田主事)	<ul style="list-style-type: none"> ・最新の二次避難所の協定を結んでいる数として、11 か所増えた。震災前は、5 つだった。震災後に倍以上の数を増やした状況になっている。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所の場所を教えてください。
地域安全課 (山田主事)	<ul style="list-style-type: none"> ・市のホームページに掲載されている。 ・ルーテル学院大学、小金井生活実習所、本町高齢者在宅サービスセンター、小金井特別支援学校、つきみの園、小金井あんず苑、桜町聖ヨハネホーム、桜町高齢者在宅サービスセンター、ミクスチュアうてな、小金井おもちゃライブラリー、秋桜（＊秋桜は、12/1 付けで締結）の 11 か所が新しく設置された。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者は、障害者福祉センターと小金井生活実習所、小金井特別支援学校、おもちゃライブラリーの 4 か所になると思うが、おもちゃライブラリーは 1 戸建てであり、避難所としては機能しない。 ・高齢者施設については、障害者は利用できないと聞いている。 ・つながっていない障害者が利用できる施設は 1 か所もない。
地域安全課 (山田主事)	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉避難所の拡大を検討しているところ。広いスペースの確保も検討している。 ・体育館は、基本的には物資集積所となる。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・教室でもよい。
地域安全課 (山田主事)	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩科学技術高校は、都立高校であるため、災害時の役割が多い。医療救護所や帰宅支援ステーション、一時避難場所にも指定されている。 ・施設側の負担等も考えながら、避難所の拡大を検討していきたいと考えている。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今の計画では、行き場所がなくなるのは明らか。避難所の数は、足りない。まずは、避難場所の確保をお願いしたい。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・大地震が発生した時間帯によって大きく対応は異なる。 ・日中で活動している際に発生した場合、生徒がいる状況で人々が押し寄せた時に、現場の職員だけでどこまで交通整理を行なうことができるか。余裕のあるスペースをどこまで提供できるかということもある。日中であれば、もう少し避難所を増やしておく必要はある。 ・受け入れ態勢を考えると同時に生徒の安否確認に動かなくてはならない。全職員がその活動ができるシステムを構築しておかなければならない。管理職との市役所の契約で終わってしまうのではなく、それを現場の職員もきちんと把握しておかなければならない。 ・2 段階、3 段階構えで検討していかなければならない。
馬場委員	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校も 2 年後には建て替えになり、なくなってしまう。
矢野副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・2 年後から 3 年間は利用できなくなる。西国分寺市のプレハブ校舎となる。
地域安全課 (山田主事)	<ul style="list-style-type: none"> ・小金井特別支援学校とは、防災教育委員会にて話し合いの場が設けられることになっているため、その際に今後について協議していきたい。
高橋会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーテル学院大学の面積は、どのくらいの広さか。

矢野副会長	・三鷹市との協定になるため、どこまでの範囲になるか。
高橋会長	・学芸大学にしても、早く場所の確保を実施したほうがよいと常々話している。
赤木委員	・三鷹市大沢となれば、小金井市から随分遠方になると思うが。
堀池委員	・そこで活用できる場所は、狭いかもかもしれないが、多くの人が避難できるようにと考えると、避難場所の数は多くしておく必要がある。
赤木委員	・国際基督教大学は、どうなっているのか。
地域安全課 (山田主事)	・広域避難所としての協定は結んでいるが、福祉避難所の協定はまだ結んでいない。
高橋会長	・ルーテル学院大学は、社会福祉学部があるため、その辺りのメリットはある。
矢野副会長	<p>・東京学芸大学なら、様々な分野の先生がいるから安心できる。有効に活用した方がよい。</p> <p>・小金井市で働いている人が、帰宅困難者となって帰れなくなった場合、その人たちの協力や場所の提供についても検討できる。そのためにも、民間の協力を依頼することも必要。</p>
地域安全課 (山田主事)	<p>・災害時には、都立北高校等においても、市外から通っている学生（災害時に学校に待機する学生）の協力が期待されているところである。</p> <p>・3.11 の際、市役所の職員は 129 名の帰宅困難者へ対応した。対応した職員も帰宅困難になった職員が対応する形だった。</p>
高橋会長	・精神的にも自分自身が弱者になってしまう。しかし、救助に回るボランティアとなれば気持ちが変わる。帰宅困難者が帰宅困難者をサポートするシステムは必要。角度を変えるということが非常に重要となる。
地域安全課 (山田主事)	<p>・帰宅困難者についての対策は、市で検討を進めているところ。</p> <p>・東京都として、帰宅困難者条例が平成 25 年 4 月より施行される。</p>
高橋会長	<p>・東京学芸大学で福祉避難所ができるのであれば、特別支援学科には 200 人の学生まるごとボランティアとして充てられる。</p> <p>・教育的にも、いろんな意味で有効。建物のいろいろな条件があるため、早くよい場所を確保してもらいたい。学生ボランティアを配置し、24 時間で対応できるようにしたいと思っている。</p>
中村委員	<p>・「ヘルプカード」などの活用を考えた時に、伝えておいた方がよいと思うことはいろいろと浮かぶが、あれもこれもと記入しておく、それを悪用されることはないのか。</p> <p>・震災時に悪用する人はいないと思うが、普段の生活の中で所持させることに不安がある。どこまで記入して、所持させておいた方がよいのか悩んでしまう。</p>
堀池委員	<p>・東京都が「ヘルプマーク」を作成し、周知しているところ。都内全域で同じ形式で作るという話が出ているため、まだ議決は出ていないが、平成 25 年度予算で計上しているところ。</p> <p>・東京都のガイドラインがホームページからダウンロードできる。それに基づいて策定していく。小金井市としては、カードと手帳の形式を検討している。</p> <p>・来年度になれば、予算は通過すると思われる。ヒアリングは検討している。ツールとしては、作成する予定。</p>

中村委員	・細かいことについての記載をどうしても考えてしまう。
堀池委員	<p>・災害時要援護者の申請書に記載しているような内容が手帳になるというイメージ。見た人が悪用することを考えると、「ヘルプカード」へ手がつけられない状況ではあった。</p> <p>・各関係機関へのヒアリングは行なう予定ではあるが、項目は掲載するが内容は、個人に任せるスタンスとなると思われる。</p>
中村委員	・名前をフルネームで言えたら、信用してしまうという例があった。リスクを考えてしまう。
高橋会長	・リスクはあると思う。
矢野副会長	<p>・支援する、支援されるという関係が希薄になっている。もう少し気軽に手を差し伸べられる関係を期待したいが、今の社会では難しい。</p> <p>・とある自治体では、緊急時には個人情報公開を公開することを条例で決定したところがあると聞いている。</p>
地域安全課 (山田主事)	<p>・緊急避難カードについては、アレルギーなど自由に記載できるようになっている。</p> <p>・各家庭で異なると思うため、家族の防災会議を事前に開催していただけるとよいと思う。</p>
堀池委員	・施設としては、悩ましいところだとは思う。
中村委員	・家族も高齢化してくると、その家族の判断能力の部分でも難しくなる。
馬場委員	・「ヘルプカード」は、障害福祉課が予算要求をしているとの話だったが、救急医療情報キットのようなものについての担当課はどこになるのか。
堀池委員	・地域福祉課が担当になる。
赤木委員	・救急医療情報キットとは、冷蔵庫に入れておくものという話だったが、個人情報の部分で抵抗を感じてしまう。自分の知らない人が入ってきて、冷蔵庫を開けて見ることになる。冷蔵庫を開けるだけで止まるのか。全部見られてしまうのではないかと心配する人もいないとも限らない。それに賛成して、契約書にサインする人がどのくらいいるのか。この間の会議の後に感じたこと。
堀池委員	・それについては、言われているところ。
矢野副会長	<p>・府中市の場合は、民生委員のところで止まることになっている。要援護者として、民生委員だけではなく、他の人を指定するかどうかということになる。</p> <p>・不特定多数の人間が援護に入ることではない。</p> <p>・小金井市の想定も登録した人が援護に駆けつけるということになっている。</p>
赤木委員	<p>・ニュースで2～3回、目にしたことがあるが、民生委員がよくないことをしてしまったという話を聞く。</p> <p>・馴染みのある民生委員が来るのであればよいが、どの民生委員が来るのかわからない。</p>
高橋会長	・どちらを優先するかという点で、最終的には個人の選択になっていくと思う。
堀池委員	・所管が異なるため、具体的な話はできない。
高橋会長	・日頃からの疑問をいろいろと確認することができた。

	・今日の議論も含めて、今後の検討をお願いしたい。
矢野副会長	・防災計画へ反映をお願いしたい。
高橋会長	・これまでの議事録には、目を通してしているのか。
地域安全課 (山田主事)	・防災の議論の回については、すべて目を通してしている。
高橋会長	・ぜひ、防災計画へ反映させていただきたい。

(2) その他

一同	・特になし。
----	--------

3. 事務連絡

次回の開催について

高橋会長	・事務局よりお願いしたい。
事務局 (藤井係長)	・次回の会議は、12月25日(火)の14:00~16:00。場所は、前原暫定集会施設A会議室。
高橋会長	・今回は、発達支援関係の協議となる。
堀池委員	・保育課へ依頼し、現在の進捗状況等を報告してもらう予定。
高橋会長	・行政側だけではなく、利用者側の意見として、「ひまわりママ」や「ピノキオ幼児園」の保護者の出席についての調整をお願いしたい。 ・堀池委員より調整をお願いしたい。
堀池委員	・承知する。
高橋会長	・その他お知らせ等あればお願いしたい。
事務局(伊藤)	・障害者週間についてお知らせする。12月8日(土)にイベントを開催する。 ・14時からハンドベルサークルの「トライアングル」と東京学芸大学の手話サークル「親ゆび姫」とのコラボレーションの演奏会を開催する。 ・15時からは、「東京ディズニーリゾートのバリアフリーの取り組み」と題する講演会を開催する。 ・地域の活動としては、11月13日に武蔵小金井南口商店街のポスター掲出活動、11月15日には、東小金井駅南口商店街のポスター掲出活動を行なった。 ・本日より、イトーヨーカドー2階のエレベーターホール前で「ぬり絵展」と「ミニ絵画展」を開催している。ぜひ足を運んでいただきたい。 ・障害者週間に関するチラシを用意しているため、お帰りの際、お持ち帰りいただきたい。
高橋会長	・本日の会議は、これにて終了する。

以上